

「TKCタックスフォーラム2024」の開催について

令和6年10月18日(金)に、東京都港区の品川プリンスホテルにおいて「TKCタックスフォーラム2024」を開催いたしました。

今回で20回目の開催となる「TKCタックスフォーラム」は、平成16年(2004年)に第1回が開催され、毎回、職業会計人の皆さまにとって参考となる事柄をテーマとして企画し実施してまいりました。今回も、共催の公益財団法人租税資料館のご協力を得て、学術関係者の方々や職業会計人を目指す学生の方々等にも、広く参加を呼びかけました。当日はハイブリッド方式により行い、会場参加者約330名、オンライン参加者約320名、計約650名の方に参加いただきました。

主催者を代表し、共催の公益財団法人租税資料館、後援のTKC全国会、並びに講演や研究発表をお引き受けいただいた皆さまのご理解ご協力に心より感謝申し上げます。

本フォーラムは3部構成で行われ、午前の部は、「相続税・贈与税の一体課税」と題して、TKC東・東京会研究グループの皆さまから昨今の相続税・贈与税改正における「資産移転の時期の選択に中立的な税制構築」に関し、「相続税と贈与税の一体化」を考察する研究発表がパネルディスカッション形式で行われました。

午後の部お一人目は、「税務行政の現状と課題」と題して、国税庁長官官房審議官の斎須朋之様から、税務行政を取り巻く環境の大きな変化に対し、国税庁において進めている「税務行政のデジタル・トランスフォーメーション」をはじめ、税務行政の現状と課題についてお話しいただきました。

午後の部お二人目は、「租税法解釈の急所——所得課税を中心に」と題して、神戸大学大学院教授の湖圭吾様から、租税法の解釈にあたり、条文の背後にある基本的な考え方を知る必要性や、具体的な事例に基づく租税法の解釈についてお話しいただきました。

TKC税務研究所は、今後も「TKCタックスフォーラム」の開催、税務の質疑に関する国内有数のデータベースである「税務Q&A」の充実、「租税判例研究会」の実施、『TKC税研情報』の発刊をはじめとして、信頼できる税務情報等の提供を通じて、職業会計人の皆さま、学術関係者の皆さま方のお役に立てるよう、微力ながら努めてまいりますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

TKC税務研究所長 谷口裕之